



寒さが厳しい毎日。休みの日は家にこもりがちになりますが、冷たい空気に触れることで自律神経は鍛えられ、病気に負けない体をつくります。天気の良い日は、積極的に外で遊べるといいですね。寒い冬を元気に乗り切りましょう！



2~3月は、花粉症のシーズン。花粉症の症状は風邪と似ていることがあります。また、子どもは症状をうまく伝えることが難しい場合もあります。気になるときは、小児科や耳鼻咽喉科などで相談してみましょう。

病後児保育利用時にお預かりするお薬について

【下記の要項を必ず守ってください】

- 病院で処方されたお薬
(市販のものはお預かりできません)
- おむつかぶれ軟膏、坐薬などもご持参ください。
当院で処方することはできません。
- 薬の内容が記入された紙をお持ちください。



子どもの花粉症について

こんなサインに注意

大人の病気と思われがちですが、5~9歳では13.7%、10~19歳では31.4%もの子どもが花粉症だというデータがあります。花粉症の症状があっても、熱がないなら大丈夫、と油断しがちですが、花粉症の症状がずっと続くと不快だけでなく、さまざまな問題を招くおそれがあります。

花粉症の三大症状

くしゃみが出る

鼻水・鼻づまりが続く

目をこする

● 口をいつも開けている

しつこい鼻づまりのために、口呼吸になります。乾いた空気が口から のどに入るため、風邪などをひきやすくなるおそれがあります。



● なかなか寝ない

● 日中元気がない、きげんが悪い

息苦しさのために、よく眠れなくなります。そのため、昼間に元気に遊べなかったり、きげんが悪くなったりします。小学生になると、授業に集中できないなどの問題が起こってくることも。

花粉と接する機会を減らそう

花粉症対策は、花粉に触れないようにすること。花粉に接する機会が多いほど、花粉症になる可能性が高くなります。花粉が増えるシーズンは、治療と予防をかねて、身の周りの花粉との接触を減らしましょう。



花粉を家に持ち込まないために

外干ししない

花粉が多く飛ぶシーズンは、洗濯物を外に干すのを控えましょう。

玄関で脱ぐ

外から帰ったら、コート類は玄関で脱いでつすなど、室内に花粉を持ち込まないようにしましょう。

服からも取り除く

衣類をはたくと、花粉が舞い散って逆効果です。粘着テープなどで取り除く、花粉が付きにくいツルツルの素材の上着を選ぶなどがおすすめです。